

日和さんに

さそわれて②

古道具



「日和さん」こと、山川美実さん  
小田原市浜町で『器・生活道具 日和』  
を営む。日本全国の陶器、硝子、木  
工、型染め、編組品（竹・あけび  
蔓）、布モノ・郷土玩具等を取り扱  
う。サバサバした性格にファン多し。

わからないから、  
愛おしい。

ベッドのスプリング、  
小鳥のエサ入れ、  
電線の間の碍子、  
ブリキの蒸し器。  
見つめていると、  
ちがう姿が見えてくる。



「私これ買います。お店に入った時からいいなって思ってたんです。」ワラで出来た丸い入れ物を手に取りながら、日和さんが言った。「ありがとうね。それは岡山の、がま細工よ。でも、それも何に使うのかは、わからないの。」とメメさん。後日、日和さんのお店に何うと、あのがま細工の入れ物に、まっ赤な実をつけた枝ものが素敵に活けられていた。



今回は、「古道具」が大好きな日和さんにその魅力をおしえてもらうため、大磯駅近くの『生活骨とう・昔きものグルニエ・メメ』さんを訪れた。日和さんが、もう10年も通っているいきつけのお店だ。

「これ、可愛いですね！何かの容器ですか？」

日和さんが手にしているのは、小さなカップのような、

手のひらに収まる白い陶器の入れ物で、持ち手のような突起が2つ付いている。

「それはねえ、小鳥のエサ入れなのよ。」

店主のメメさんが教えてくれた。

「鳥かごに引っ掛けて、後ろからその小さい穴に棒を通して固定するのね。」

「へえ〜！ こうやって植物とか入れると可愛いですね。少し変わったって。」

日和さん曰く、本来の使い方だけでなく、こうして違う使い方を自分で考えるのも、古道具の楽しみ方のひとつなのだそうだ。

日和さんとメメさんが出会った

横溝さんの蒸籠③

こんな風に使ってます。

横溝さんの蒸籠で、  
お芋をふかしました。

息子の保育園で芋掘り体験をしたらしく、ずいぶん大きくて立派なさつま芋と、反対にずいぶんかわいいチビスケなさつま芋をもらいました。一歳半になったうちの息子はさつま芋が大好き。せっかく地元の新鮮なさつま芋をいただいたのですから、横溝さんの蒸籠で、そのままふかしていただくことにしました。

